

日本音楽知覚認知学会2019年度春季研究発表会
 場所：大阪樟蔭女子大学 翔空館 10F S1001, S1002

6月1日(土)

10:00	理事会				
12:30	受付開始				
13:00	開会挨拶(10分)				
13:10	口頭発表セッション1 座長： 河瀬諭(大阪大学) 池上真平(昭和女子大学)	<JSMPC2019(1)-1>	◎山本雄也(筑波大学), 平賀諒(筑波大学)	ポピュラー音楽の歌唱における主観的難易度と音楽的要因の調査	本研究では、ポピュラー楽曲を題材に、人が感じる歌の難易度の要因を調査した。歌唱難易度の要因として楽譜特徴量を定義し楽曲の譜面から抽出、主観評価と音楽特徴量の関係を調べる歌唱実験を行った。実験参加者には楽曲を複数曲歌わせ、難易度をその判定理由とともに評価させた。
13:35		<JSMPC2019(1)-2>	◎山崎英明(名古屋経営短期大学)	ピッチマッチングを用いた学習の維持・定着に関する研究～運動学習の枠組みから～	本研究は以下について統制された条件の下、実験を行ったものである。1. 学習効果における運動学習の寄与について。2. もともと持っている歌唱スキルの個人差や音域選択的な学習効果について。3. 音程学習の維持・定着に関する点。
14:00		<JSMPC2019(1)-3>	◎桶本まどか(八戸工業大学), 三浦雅展(国立音楽大学), 嶋脇秀隆(八戸工業大学), 三戸勇氣(日本大学), 川上央(日本大学)	リタルダンドの印象における音楽経験の影響	楽曲におけるテンポの変化ボタンと印象の関係はこれまで調査されていない。本報告では、音楽経験が大きく異なる聴取者とし、実験刺激を様々なリタルダンドとした実験の結果、音楽経験の有無が美しさに対する評価に影響を与えることが示唆されている。
14:25		休憩(10分)			
14:35		<JSMPC2019(1)-4>	◎服部安里(名古屋芸術大学), 豊島久美子(大阪樟蔭女子大学), 福井一(奈良教育大学)	音楽嗜好と共感性	共感性はヒトが社会を維持していくために不可欠の能力である。本研究では、音楽と共感性の関係を心理学・社会学および行動遺伝学的に調べた。共感性の生物学的指標としてオキシトシン受容体遺伝子の多型を用い、音楽嗜好や音楽行動(音楽経験等)との関係を分析した。
15:00	<JSMPC2019(1)-5>	◎竹田香子(日本大学)	金管アンサンブルスタディ アクティブラーニングを活用したアンサンブル指導の一考察	高等教育でのアンサンブル指導において、アクティブラーニングの手法を取り入れ、その有益さについて検討した。学生自身が持つ内在された思考を、ピアレビューを通して、あえて言語化し、それを外在化させる事は音楽づくりにおいても学修という観点でも有益であると考察する。	
15:25	休憩(10分)				
15:35	ポスター口頭説明 (1分×6題) 進行：小野健太郎(広島大学)	ポスター第一発表者全員(下記の順番で実施)			
15:45	ポスター発表 (50min)	<JSMPC2019(1)-6>	河瀬諭(大阪大学), 金澤尚史(大阪大学)	合奏における個性と協創一人と人工知能の比較	
		<JSMPC2019(1)-7>	近藤聡太郎(東京大学), 橋亮輔(東京大学), 岡ノ谷一夫(東京大学)	多義的な拍子喚起刺激の知覚	
		<JSMPC2019(1)-8>	大藪天音(梅花女子大学), 田中さなえ(梅花女子大学), 三雲真理子(梅花女子大学)	BGMのテンポが二人間会話に及ぼす影響	
		<JSMPC2019(1)-9>	平田暖佳(国際医療福祉大学塩谷病院), 谷浩明(国際医療福祉大学)	ピアノ経験の有無やテンポの違いが5指による打鍵動作に与える影響	
<JSMPC2019(1)-10>	池上真平(昭和女子大学), 佐藤典子(武蔵野音楽大学), 羽藤律(ゆたかカレッジ横浜キャンパス), 生駒忍(川村学園女子大学), 宮澤史穂(高齢・障害・求職者雇用支援機構), 小西潤子(沖縄県立芸術大学), 星野悦子(上野学園大学)	日本人における音楽聴取の心理的機能についての調査：中間報告			
16:35	休憩(10分)				
16:45	特別講演 (60min) 座長：山崎晃男	<JSMPC2019(1)-11>	手塚恵子(京都先端科学大学)	歌垣(掛け合い歌)研究の現在	
17:45	総会				
18:30頃～	懇親会(2時間程度)	場所：高智館1F生協食堂			

6月2日(日)

9:30	口頭発表セッション2 座長：正田悠(神戸大学)	<JSMPC2019(1)-12>	猪本修(兵庫教育大学), 大村優華(兵庫教育大学)	金管楽器の相互作用による聴こえ方の変化	2本の金管楽器を近接して演奏するとき、楽器間の相互作用と位相調節によって音色が相互に変化して聴こえ方に影響する。このことについて実験に基づく解析を行い、倍音成分の位相同期によりミッシング・ファンダメンタルに類似した現象が起こることを見いだした。実験についての詳細とこの現象を説明するモデルを提案する。
9:55		<JSMPC2019(1)-13>	山崎晃男(大阪樟蔭女子大学), 松本茂雄(USEN), 森角香奈子(USEN), 山森茜(USEN)	オフィスにおけるBGMの効果：フィールド実験による検討	オフィスにおけるBGMの使用がオフィスワーカーのメンタルヘルスや職務状況、仕事・会社への評価などに及ぼす効果を調べた。その結果、BGMがオフィスワーカーに肯定的な影響を及ぼす可能性が示された。
10:20		<JSMPC2019(1)-14>	武本京子(愛知教育大学), 伊藤康宏(藤田医科大学)	演奏者の「イメージ奏法」を使った感情の知覚化による音楽と映像の供与ー視聴者自身の音楽への「共感性」の認知から心の再生を促す試みー	演奏者の「イメージ奏法」を使った音楽と映像の視聴覚融合の供与が視聴者の共感性の認知を導き、精神面・肉体面へのどのような影響と効果を与え、心の再生を促すことができたかを心理学的・医学的検証した報告
10:45		<JSMPC2019(1)-15>	夏目佳子(兵庫教育大学)	音の跳躍方向の異なる箇所での視線移動と演奏エラー	ピアノ初見視奏では、音が跳躍する箇所演奏エラーを起こしやすい。1オクターヴを超える音の跳躍があり、左右の手が同方向と逆方向に移動する箇所における視線移動と演奏エラーについて検討した。
11:10	休憩(10分)				
11:20	口頭発表セッション3 座長：谷口高士(大阪学院大学)	<JSMPC2019(1)-16>	長嶋洋一(静岡文化芸術大学)	PC環境での心理学実験におけるレイテンシとジッタの再検証	心理学実験を行なうPCベースでのマルチメディア・システムの遅延(レイテンシ)とばらつき(ジッタ)について改めて計測実験を行い、研究の基盤に関わるポイントについて再検討したので報告する
11:45		<JSMPC2019(1)-17>	田中昌司(上智大学)	オペラ視聴時の声楽家の脳波個別解析	オペラ鑑賞が視聴者の脳にどのような反応を引き起こすかを調べるために、オペラのシーンのビデオを観ている時と、比較のために、映像なしで音のみを聴いている(リスニング)時、自然の風景のビデオを観ている時、および安静時の脳波を計測した。多くの被験者で、デルタおよびベータ・ガンマ周波数帯の脳波パワーの増大が認められた。また信号源推定によって、視聴時とリスニング時で脳活動部位が大きく異なることが示された。
12:10		<JSMPC2019(1)-18>	平田嘉之(名古屋市立大学)	幼児期前期のつくり歌の頻度と幼児の音楽行動特性との関連	幼児期前期(言語獲得期)の幼児は生活のいろいろな場面で鼻歌のように、即興的なつくり歌を口ずさむことが多い。本研究では、幼児期前期の即興的なつくり歌の頻度と、つくり歌が歌われる個人内要因としての幼児の音楽行動特性との関連について、実証的に述べる。
12:35	授賞式・閉会挨拶 (13:00頃に終了の予定)				

※口頭発表の持ち時間は1人25分(発表18分、質疑応答5分、交代2分)です。

※研究選定の候補者には◎がついています。

口演・ポスター会場はS1001, 理事会とその後の休憩場所はS1002